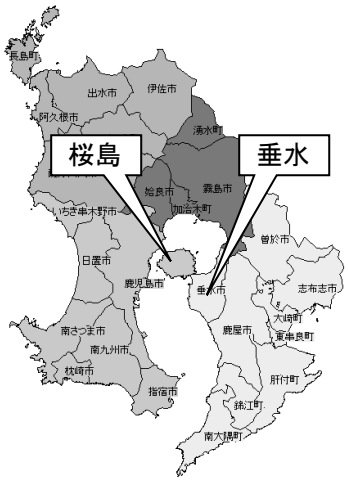
2016（平成 28）年の実践です

被災地(福島)に思いを寄せて～合唱曲『群青』を通して学ぶ～

東京・山下洋児

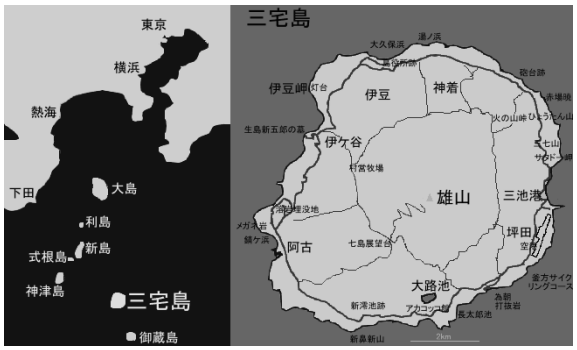
１．はじめに

（1）自己紹介



2011 年以来、毎年被災地のどこかを訪問し、自分の学級では必ず何かしらの震災に関わる授業を行ってきています。大げさにかつ単純化して言うと、あの大きな災害のことを子どもたちに伝える責任が、私たち大人（特に教員）にはある、という思いからです。2013 年に一度、震災学習に関わる実践報告をまとめました。今回の報告も客観的にどうなのか？（自分の思いだけが先走っていないか､伝えることで自己満足に終わっていないか、この授業が被災した当事者の方々の思いからずれていないのか等々）ということも含めて、ご意見、ご批判をいただきたいと思います。

私は､鹿児島県出身｡垂水市という桜島に非常に近い地域で生まれ育ち、物心ついた頃から、桜島の「爆発（爆発的噴火)」(爆発音と揺れと降灰、稀ですが桜島が夜真っ赤になる姿等）は日常生活の中にありました。



また、初任地は三宅島で、新採４年め、1983（昭和 58）年 10 月 3 日に噴火が起こりました。この時は、生まれて初めて、一瞬ですが､「死ぬかもしれない」という思いを持ちました｡(握りこぶし大の噴石が降って来て、走行中の車のフロントグラスに当たる中を走っていた時と、当日の夜、勤務校の職員室の床に横になっている時に、震度５（後で、三宅島測候所の職員が、「あの時のゆれは実際には、震度６だったと思う」と言った揺れ）の地震を感じた時｡）給食センターも溶岩の下となり、噴火から半年間、救援物資の缶詰とレトルトご飯という給食も経験しました。

こんな自分の来歴も、震災に関わる授業をやらなければ、という思いにつながっているのかもしれません。

（2）今回の授業に取り組んだきっかけと授業に込めた思い、授業のねらい

1)「群青」との巡り合わせ

2016 年４月から非常勤教員となり、現任校に赴任した１学期、音楽の講師から２学期の合唱曲の候補曲が担任に提示されました。３曲候補曲がありましたが、その内の１曲が被災地で作られたとのこと（この段階では、まだ私は「群青」の曲も、「群青」に関わる物語も全く知りませんでした｡)。３曲聴き比べると、群を抜いて「いい！」。音楽講師の「イチオシ」でもありました。直ぐに「群青」について調べてみると、福島県南相馬市立小高中学校で作られた経緯がわかりました。

これまで、生徒達に震災のことを伝えながらも、原発事故が絡む福島のことを伝えたい、しかしどんな切り口で伝えればいいかという思いがあったのですが、ここで「群青」に巡り合ったことで、同じ年齢の中学生達がどのような状況に置かれたのかということを中心に、この「群青」に関わる授業をしたい、生徒達に福島の状況を伝えたい、と強く思いました。また、ちょうど、合唱コンクールの２週間前に道徳地区公開講座が行われることになっており、そのタイミングに合わせて授業を組めればということも考えました。

2) この授業で生徒に伝えたかったこと（※学年会で提案した資料より）

道徳地区公開講座（10.12）に向けての提案（2016.8.29　山下）

特別支援学級としての案

○合唱コンで歌う「群青」の取り組みと絡めて行う。

○授業の流れ（イメージ）を確認したら、ある程度必要な時数を出し、９月から、道徳、総合等の時間を使って授業を行いたい。

１．この授業のねらい

東日本大震災による福島第一原発の事故によって、自分たちと同じ中学生が、避難生活をせざるを得なくなった。しかも、例えば一ヶ所の避難場所や仮設住宅で、集団を保ったまま生活することもできず、全国バラバラになってしまった。

①まずは、その理不尽さに共感すること。

②全国各地に離れた同級生たちを思い、ことばにしたものが、群青の歌詞となったことを知り、その群青をどんな思いで小高中生達が歌ったのか、想像し、思いを寄せる。

③東日本大震災が、どのような災害だったのかという事実（原発事故も含めて）と、時間とともに忘れられてしまう災害が、実は終わっているのではなく、まだまだ困難が続いている事実を知る。（このこと無しには、上記①②はできない。）

④この学習の結果として、「群青」の歌詞を深く読み取り、よりよい合唱にしていく。

２．東日本大震災の時、現在の中学生は何年生だったか。

３年生…小３　２年生…小２　１年生…小１

このことからも、例えば授業の導入で、「あの時、みんなは何をしていた？」と聞くような授業は、もうそろそろできなくなると考えられる。

３．大まかな授業の流れ

①今年の大きな災害を振り返る→熊本大地震

②東日本大震災の概略を知る

③特に福島の状況を知る…「日常」「当たり前の生活」が戻っていないことを中心に。

④合唱曲「群青」に関わる内容・・・「群青」ができた経緯から歌詞の内容へ。

その時の小高中学校の生徒の気持ちを少しでも想像できるか。

それらの思いを自分たちの合唱に込められるか。

※上記資料には書きませんでしたが、自分の中では、この３年間福島を訪れて現地の方のお話の中で何回も出てきた、憲法１３条、２５条のことを生徒に伝えたい…というより、自分がこのことを押さえておかねばならないという思いがありました。

【憲法１３条】すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。

【憲法２５条１項】すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

3) 授業の中心をどこに絞るか

東日本大震災に関わっては、伝えたいことが山ほどあり、福島について言えば原発の問題があって、どこまで伝えるのかということで悩みました。しかし、全貌を伝えようとすると限られた時間の中では内容が薄くなり、生徒の実態にも即していないということも考えました。

今回は、自分たちと同じ時代に生きている、同じ中学生が作った曲を自分たちも歌う、ということを生かして、上記学年会提出資料の「１．この授業のねらい」に示したことに絞って授業を行おうと考えました。

２．具体的な授業の経過

（１）東日本大震災の概要を学ぶ。

この数年、地震だけでなく豪雨も頻繁に起こり、そのことを自分自身も忘れてしまっているという事実はあるのですが、この授業では地震に絞りました（1983 年の三宅島の噴火の話もしましたが)。

1)熊本大地震のこと

この年度に入って起こったこととして、熊本大地震のことを取り上げました。全体の授業の導入という形で、写真を見せ「これは何の写真だと思う？」と問いかけて、概要を説明するに止めました。
→最初の写真を見ただけで、「熊本地震」という声も上がり、駐車場に避難している様子も 5～6 人から「避難している」という声が出ました。地割れと熊本城の写真には大きな声が上がりました。

2)東日本大震災の概要

・「2011 年 3 月 11 日には何があった？」→見当がつかない人 5 人位。
・「その時、何をしていたか、覚えてる？」→3 分の 1 くらいは覚えていない。
・2011 年の宮城県石巻市の写真を中心に、東日本大震災の概要説明。
・1983 年の三宅島のことも、被災時の給食のことなどを中心に伝える。

（２）福島の状況を学ぶ。

1)被害が大きかった県、避難者が多い県という観点で、福島のことに移っていく

〇生徒への問いかけ

Ｑ１．被害が大きかった県はどこだと思いますか？(日本地図を示して)
　→数人、「右」と言ったり、右の方を指さしたりする。
　→Ｆが、「宮城県石巻あたり」と答える。

Ａ．岩手、宮城、福島という３県の被害が特に大きかったことを伝える。
　※しかし、茨城や千葉や、長野県(県北部及び新潟中越地方)でも実はその直後震度６の地震があったことも伝える。（長野県栄村　２０１１年３月１２日震度６強）

Ｑ２．では、この３つの県、岩手、宮城、福島の内、今も避難している方の数がいちばん多い県は、どこだと思いますか？
　→宮城に手を挙げる人がいちばん多い。Ｆが「災害がひどかったから」的なことを言う。確かに、震災直後のニュースでは、福島はあまり出なかった。そのあたりの記憶からだろうか？

〇ワークシート「福島について知っていること。『福島』と聞いて、頭に思い浮かぶことを書いてください。」

「例えば、親戚が住んでいる、小さい頃に行ったことがあるかもしれない、何か音楽の時間にＳ先生から聞いたなあ、等でもいいよ。」

（※ワークシートを使ったのは、すぐに発言する生徒の発言で授業が動いていかないように、発言まで時間がかかるけれども、考えて発表しようという生徒が授業に参加できるように、という意図からだったが、こちらの予想以上に生徒たちはしっかりと書いた。）

〈生徒が「福島について知っていること」「福島と聞いて思い浮かぶこと」のワークシートに書いたこと〉

・A:ひなんしている人が多いため、「群青」をつくったのかもしれない。多くの人が不便や不安があるかもしれない。
・C:S先生が、群青について、福島県南相馬市小高区のことを話してくれました。仮設住宅。
・E:原発事故があった。ひなんしている人が多いから『群青』をつくっているかも。
・F:ニュースで原発のことをみた。
・G:常ばん線が走っていたのに、営業運転がなくなった。
・H:おおくの人がなくなっておおくの人がゆくえふめいやひなんしている。

・J:しんかんせんでとおったことがある。ふくしまえきでおりたことがある。しんだいとっきゅうでとおったことがある。
・K:何回か旅行で行ったことがある。まん中の方に湖がある。海ぞいの方は原発じこで住めなくなり、住人はひなんしている。
・L:福島けんは、ももがめいぶつ。
・N:げんぱつじこでたいへん。
・P:福島第一原発
・Q:2011.3.11　福島第一げんぱつ1，2，3号炉のじこ。じょうばんせんが走っていない区間がある。地元りょうりがウマい！！
・R:ハワイアンズ
・S:原発での出来事、福島の小中高生の人が他県にひなんしていること。鉄道の全線が開通したこと。

○避難している人の数。３県の比較は円グラフ等で示す。他県より福島県からが圧倒的に多い、ということを確認。

「何万人」という人の数のイメージは難しい。「避難している人の数１３万人は、お隣のＴ市の人口と同じ。」「福島県で避難している人の数、約８万人という数は、ちょうど自分たちＩ市の人口と大体同じ。Ｉ市の赤ちゃんからおじいちゃん、おばあちゃんまで、ある日突然避難しなければならなくなって、今も家に帰れないということだよ」と説明。

Ｑ３．では、どうして、こんなに福島から県外に避難している人が多い？

ワークシート「どうしてこんなに、福島から県外に避難している人が多いのだろうと思いますか？」

〈生徒の考え〉

・A「津波や原発で家などにひ害を与えた。」
・C「地震と原発事故で避難している。」
・D「いろいろな災害が起きて、危けんなじょうたいなので、不安だから、他の県へ避難した。」
・E「原発事故があった。不便や不安が多いから。」
・F「住めないから。」
・G「けむりがでて、その場所に住めなくなったから。地しんでばくはつしたから。」
・H「いえがじしんでくづれたり･･･。」
・J「原発じこがあったから。気分がわるくなるやつがでてきてるから。」
・K「原発じこのえいきょうで、住んでいた場所に住めないので、他の県にひなんしたい人が多いから。」
・L「どうろがかんすいしたり川がかんすいしたりいえのなかが水だらけだからほかのけんにひなんしているから。」
・N「福島が今あぶないところになっているから。またくづれるからあぶない。福島にもういられないから。」
・O「あたらしいいえがない。」
・P「津波とかが来て人が流されるから」
・Q「福島第一げんぱつじこ(3、4、5号炉)。つなみ。」
・S「原発からでた放しゃのうがあるから。」

2)避難指示区域になったために帰れない事実を学ぶ

「福島について知っていること」「なぜ福島だけ帰れないのか？」という問いへの、みんなの考えを再度、確認し合う。→生徒が書いたものを打ち直して、プロジェクターでお互いに見合う。

→それぞれが、自分のものが出てきた時は、「ぼくの」という表情や意思表示をする。

→実際に、みんなの言うように、福島だけ避難者が多いのは「原発」が原因であることを伝える。

→また、「ふくしまはももがめいぶつ」を受けて、「福島の食べ物は食べないようにしよう」というようなことがあった？と聞くと、ST が手を挙げる。随分前だとのこと。他の生徒はほとん

ど意識していなかったのだろうと考えられる。「例えばお米は全袋検査と言って、全部の袋を調べて、今市場に出ている福島の食べ物は、むしろ他の地域の物より安全」ということを話す。

○常磐線が走っていない、という事実を写真で見せる。原の町駅の特急電車。

→常磐線のことを知っていたので、原ノ町駅の表示をまず見せる。しかし、これには反応しない。駅名も知らなかったのかな？

→ところが、駅の上から写した特急電車の写真を見せた途端、Qが「ひたちだ！スーパーひたち！」と言い、ＪやＳも大きく反応する。予想以上の反応。3.11 以来、ここに少なくとも昨年夏までは止まっていたことを話す。Qいわく、その後解体処理されたらしいが…。

○夜ノ森（富岡町）の桜と、夜ノ森駅の草だらけの写真を見せる。

「この２つの写真を見て、想像することを書いてみて。（ワークシート）」

→この段階では難しいと思ったので、その場で、先に日テレのニュース ZERO の映像（2016 年 4 月の桜満開の夜ノ森をドローンで撮ったもの）を見せ、解説した後に書かせる。難しそうだったので、「桜きれいだなぁ」「観たいなぁ」というような感想でもよいこと、今日見た、他のことについての感想でもよいことを伝える。

〈夜ノ森の写真、ニュース映像を見て思ったこと〉

・D：毎年、「夜ノ森桜」を見に行っている人達が、何年も、「夜ノ森桜」を見ることができなくて、住人も自宅に自宅することができなくて、かわいそうだなと思いました。

・G：使ってない駅だと草がいっぱい自然に出てきて、田舎だと思った。古い駅舎だと思った。夜ノ森の桜は桜の道だと思った。

・Q：ひなんしじがかいじょされたら、スーパーひたちをつかって、夜ノ森駅まで行きたい。そして、夜ノ森の桜を見に行きたいと思った。

・I：夜ノ森の桜がきれい。

・C：原発で、夜ノ森地区は、まだ避難くいきにつつまれている。と思った。

・J：はやく電車がうごいてほしい。

・N：草がぼうぼうになっていた。中に入れなかった。夜ノ森の中に、人いなかった。行きたくなった。桜がまんかいで、きれいだった。

・P：桜がきれいでした。人がいたらいいのになあーと思いました。スーパーひたちが止まっていました。とてもかっこよかったです。

・R：夜ノ森駅の写真を見たときは、昔の駅みないな駅でした。夜ノ森の桜の映像は、桜のトンネルみたいになっていて、ふしぎでした。

・L：さくらは、とってもまんかいでした。人は、だれもいませんでした。夜ノ森えきは、いなかのえきでくさがいっぱいでした。

・E：草がすごくはえている。いすの下にも草がはえている。でんしゃのやねにいっぱいすなみたいなのがついている。

・A：その住人たちは、その桜をみていたかもしれない。駅がしばらく使われておらず、周りと駅まで雑草でけっこうしげっている。

家がそのままのものもあり、一部こわれたものもある。

・B：夜ノ森駅の草がすごかった。

・F：夜ノ森のさくらがまんかいだけど、ほうしゃのうのかんけいで、夜ノ森のさくらが見れない。すごくざんねんなきもちです。夜ノ森えきは、つかわれていないかんけいで、草がぼーぼーです。電車がはしれないので、かわりにバスを電車のかわりにしている。

ファッションセンターしまむらは、さぎょうする女子（？）につかわれているたてもの。

・K：人がだれもいないので、さびしい。駅には草が生えていて、あれはてていた。桜がきれいなのに、人がだれもいなかった。駅にとまっている特急列車もあれていた。

・H：さくらがきれいなのに、はいれないのは、かわいそうです。おはなみもできないのもかわいそうです。

・S：スーパーひたちが、4 年半ぐらい原ノ町駅でずっと停まって使われていなくてビックリした。夜ノ森駅が無人化していた。スーパーひたちに乗りたくなってきた！　スーパーひたちには、一度も乗ったことがないので、一度乗りたい！！！！！！

⇒「原ノ町駅の特急電車（スーパーひたち）」「夜の森の桜」「夜の森駅」の写真、動画を見た当たりから、生徒たちは福島のことを、ぐっと自分に引き付けて考えるようになったように感じる。

3)小高中学校のこと、「帰還困難区域」の言葉等の説明

○前時のみんなの意見（「夜ノ森」「原ノ町駅」について）の紹介。お互いに見合う。
　その前に、今日（10 月 7 日）の新聞記事。常磐線開通に向けての記事。
　線路がぐにゃぐにゃと曲がっている様子がいちばん印象に残ったようだ。
○「2011 年から、そのまんま」であった（ある）ことを確認する。
・「原ノ町駅スーパーひたち」「夜ノ森駅」「浪江の新聞販売店」「小高駅の自転車置き場」
　「人がいない町」等。
　「人がいない」は写真を見てすぐに SN が言う。他の生徒も、人がいない、さびしそうだということに気づく。
○それは、みんなが言うように、原発事故のせいで、避難指示が出た、ということを説明。
○避難指示等の用語の説明の説明
○半径２０キロのこと。福島での小高中学校の位置。東京だったら？
　→品川の東電火力発電所を中心に半径２０キロ、３０キロの円を描く。Ｉ市はどこか？
　「東京だったら」はよく反応した。「えー、あぶないじゃん」等々。
○群青を作ったのは誰？
○小高中学校は、どんな様子だったのだろう？
　・生徒数の変化等。
　・小高中学校の当時のＨＰと現在のＨＰ。フレコンバッグの写真。この状態だから帰れない。
　・フレコンバッグにも強く反応。「えー！」

4)「群青」ができた経緯、小高中学校の様子を学ぶ

○「青の絆」（2014 年 3 月の小高中の卒業式までの数か月の映像。「群青」を作った生徒たちは、この時、高校 1 年生。OurPlanet-TV 制作）の一部を視聴。
〈小高中の仮設校舎での生活の様子〉〈小田先生の話〉〈群青祭（文化祭）での「群青」全校合唱〉
　→全員（まさに全員）本当に、とてもよく見ている。「群青」の合唱の映像になると、ＮＳ、ＦＫ等数人が一緒に口ずさんでいる。

〈「青の絆」の映像を見ての生徒の感想〉

○O「ふくしまが 20kmのじこがあり、びっくりした。よの森えきはえいきょうしていなかった。
○B「群青祭の小高中学校の群青がすごかった。」
○F「わたしたちのれんしゅうしているぐんじょうをきいてみて、とても、おもいがつたわってきて、すこし、しんさいにあったきもちにもなりました。すこし、なみだがこぼれそうになりました。わたしたちも、がっしょうで、このえいぞうでみた、ぐんじょうのように、おもいがつたわるようにうたいたいです。ぐんじょうの青のきもちがわかりました。」
○K「地しんや原発じこで友だちがはなればなれになっていると思うと、悲しいと思った。5 年がたっても、まだ家に帰れない人がいる。『群青』も、小高中学校の生徒が歌っていると、またちがう感じがした。」
○H「ぼくはおもいました。『なぜこのせかいにじしんがあるのか』。母おやをなくした子どもたち、子どもをなくした母おや、ともだちをなくした子どもたち、ぼくは、すこしかんどうしました。そして、もうすぐそつぎょうする 3 年せい。ぼくは、かわいそうとおもった。しかし、そつぎょうしきにさいごに 3 年せいいがぐんじょうをうたったときに、なくなった人た

ちにとどくまで大きいこえでうたっていたのが、かんどうしました。」
○S「ぐんじょうを作った小高中の生徒さんたちが、この思いを小田先生が作詞作曲をすること。ぐんじょうを歌うときは、小高中の生徒さんのことを思って歌おうと思った。」
○D「『群青』を作った人達の事を、ちょっと知ることができた。」
○J「ふくしまけんぜんいきで、はやくひなんしじがかいじょされてほしい。はやくふくしまに行きたい。」
○N「先生が、せいとのかんそうを歌のしにしていて、すごいなと思いました。今日の授業を聞いて、前の土曜日のぼうさいくんれんのことを思いました。5 組と同じで群青を歌っていました。こんなふうに群青を歌うんだなと思いました。」
○P「小高中学校の群青の歌を聞いて悲しい気持ちになったり、前向きな歌だと思った。」
○G「福島から群青ができて、学園祭で歌って曲のセンスがあると思った。群青の指揮者が上手だと思った。先生たちも必死で教えていてやる気があると思った。震災の人は大変きつかったけど、曲が発明してすごいと思いました。」
○I「群青を見た」
○C「『青の絆』を見ました。『群青』という歌が出ました。」
○R「福島の学校で歌っている群青と、稲城一中で歌っている群青のちがいが、すこしわかりました。歌詞の（いまでもわすれない）のあとの歌い方がちがいました。」
○L「小高中学校の人たちがぐんじょうをうたっているのがすごかったです。わたしたちもうたをがんばりたいです。」
○E「まだ家に帰れない人がたくさんいるなと思うとかわいそうだなって思いました。小高中学校の生徒がもどってくるといいなって思いました。小高中学校の生徒が歌ってから、自分たちもうまく歌えたらいいなって思いました。小高中学校にもどって、みんなで校庭で遊びたいなーと思っていると思いました。」
○A「小田先生は、辛いひ難生活を送った生徒に、どれくらい辛かったかなと思いながら、厳しく『群青』の練習を進めていたんでないかと思った。」

※授業終了後、HがM先生に伝えたこと。

「『またねと手をふるけど、明日も会えるのかな』の意味がわかった。突然亡くなったり、遠くに行ったりしたからなんだね」

○「群青」の歌詞で好きなところ、思いを込めて歌いたい歌詞を書く。

〈ワークシート～歌詞で好きなところ、気持ちを込めて歌いたいところ～〉

○D「好きなところ」は「また会おう　群青の街で」です。「好きな理由」は「優しい感じ」がするからです。
○J「響け　この歌声」ここのかしはもりあがるから。
○O「3月のかぜにふかれ」
○N「あの日見た夕日　あの日見た花火」…きれいな夕日が空のうえにうかんでいる。「群青の街で」
○I「たくさんの想い抱いて　一緒にときをすごしたね」「今　旅立つ日　見える景色はちがっても」「遠い場所で君も同じ空」「あの日見た夕日　あの日見た花火」「当たり前が幸せと知った」「自転車をこいで　君と行った海」「遠くまでも　あの空の彼方へも」「大切な全てに届け」「涙のあとにも　見上げた夜空に」「希望が光ってるよ」「僕らを待つ群青の街で」「きっとまた会おう」「あの街で会おう」「僕らの約束は」「消えはしない」「群青の絆」「群青の街で」
○Q「響け　この歌声」「響け遠くまでも　あの空の彼方へも」
○G「あれから二年の日が　ぼくらの中を過ぎて　三月の風に吹かれ　君を今でも思う」
あれから二年の日は、あっという間にたっていって、時を超えるから。人との思い出を振り返るから三月は別れる季節だから、人とはまた会う日でと思った。
○K「涙のあとにも　見上げた夜空に　希望が光ってるよ。　僕らを待つ群青の街で」
○S「遠ざかる君の笑顔」「三月の風にふかれ」
・このニつは、パート2しか歌わないけれど、意味にこめた気持ちがよく伝わるから。

○H「「またね」と手を振るけど　明日も会えるのかな」
　　「あの日見た夕日　あの日見た花火」…おもいでを歌ってる感じ。
○A「きっとまた会おう　あの街で会おう　僕らの約束は　消えはしない　群青の絆　また会おう群青の街で」
○E「みんな好き。気持ちがつたわるところがたくさんあるから。
○R「遠ざかる君の笑顔　今でも忘れない」の所を特に気持ちをこめて歌いたいと思います。
○P「自転車をこいで　君と行った海」「遠ざかる君の笑顔　今でも忘れない」
○F:・好きなところ「ああ　あの街で　生まれて君と出会い　たくさんの想い抱いて　一緒に時をすごしたね」「あの日見た夕日　あの日見た花火　いつでも君がいたね　当たり前が幸せと知った。自転車をこいで君と行った海　鮮やかな記憶が　目を閉じれば　群青に染まる」…もともと東京の人だけど、最初に静岡から東京にひっこすことになって、いままでいっしょにあそんでいたちかくのおともだちとも　おわかれをして　すごくさみしく、そのひとつひとつすきだったところに、　そのひっこしするまえと　ひっこししたあとのきもちが　あったからです。
　・うまく歌いたいところ(全部)をえらんだ理由…もし、まえしずおかであそんだおともだちのもとにいけれたらいいな、あそべたらいいな、あえたらいいな、というきもちがたくさんかいてあるので、わたしはなのでえらびました。

→「青の絆」を見ての感想が映し出されるのを、とてもよく見ている。
○小高中学校の合唱の映像を視る。(２０１３年３月の映像)　→この映像もよく見ている。
OO「何て言ったらいいかわからないが、なんか違った」(前日に見た 2014 群青祭の合唱と比べて)

〈小高中の 2013 合唱を視聴しての感想〉

○J:せいりょうがすごかった。
○S:小高中の生徒さんが歌っている音程が、5組で歌っている音程がすごく似ていたことです。
○E:聞いていて、あのしんさいのときに思ったり、悲しかったりするところがつたわってきました。人数が少ないけれど、いい声がたくさん聞こえて感動しそうになりました。歌う時は、小高中の生徒を思いながら歌いたいです。
○L:とってもうたがじょうずで　のばすところが　わたしたちと　ちょっとだけちがいました。わたしたちも　本ばんは、うたをがんばって行きたいです。
○P:小高中の合唱のリズムがよかったです。
○F:なみがくるようにひびいてくるこえ、きもちが、くらく、つらかったよ、くるしかったよというきもちが　ひょうじょうやきもちにでてとんできました。

5)道徳授業地区公開講座当日

※前日に、これまでの学習の経過を書いた学級だよりを出す。(資料①)
○これまでの印象に残ったところを数字と映像で見る。(生徒に、これまでの学習を振り返って確認させたかったことと、参観者にもこれまでの学習の概略を知ってもらいたかったことのため)
・避難者数等
・写真は、原ノ町駅、夜ノ森桜、夜ノ森駅、新聞店、小高中学校校舎、新聞記事
○みんなの感想の紹介
○いい合唱にしようね、ということを伝える。
→最後に３年生に一言ずつ言ってもらった中で、Ｐが「あらためて、いい曲だなあと思った」
　指揮者のＲは、「小高中の指揮者みたいにやりたい」
※保護者より

・群青のできた背景を知り、(小高中の)合唱を聴いて涙が出ました。
・合唱曲に、これだけの事前学習。本番が楽しみです。

３．合唱コンクールと連合行事での発表

（１）校内合唱コンクール

生徒たちは、合唱コンクールのトップバッターで、ハンドベル演奏と、この「群青」の合唱をしっかり演じ切り、歌い切ってくれました。

その雰囲気は、合唱コンクール翌日発行の学級だより（資料②）で。３年担任（教員として３年目、教科は音楽）が書きました。この学級で生徒と２年半関わってきた思いが、教員としての幸せ感があふれている学級だよりだと思います。

（２）多摩地区の連合行事「劇と音楽の会」での発表～ことばを添えて合唱へ～

2011年3月11日、東日本大震災が起こりました／大きな地震と津波で、大変な被害が出ました／
そして、福島の原子力発電所で、事故が起きました／福島の人たちは、避難しなければなりませんでした／
南相馬市の小高中学校の生徒たちも、日本全国にバラバラになってしまいました／これから歌う「群青」という曲は、小高中の生徒と先生が作った曲です／全国にバラバラになった仲間を思って作られました／
福島の駅には、2011年から止まったままの特急電車がありました／新聞屋さんには、たくさんの新聞がそのまま残されていました／人のいない町があります／夜の森という町の桜は、とってもきれいです／
でも、だれも、その桜を見に行くことはできません／人がいればいいのに！／
常磐線が開通したら、特急電車に乗って、夜の森の桜を見に行きたい！／
そんないろいろな思いを込めて、「群青」を歌います／
あの日見た夕日／あの日見た花火／いつでも君がいたね／あたりまえが　幸せと知った／
ひびけ　この歌声／大切なすべてに　届け

上記のことばは、「劇と音楽の会の発表に当たって、同じ中学生に自分たちがどんな学習をして、どんな思いでこの歌を歌うかを伝えてもらいたい。」ということを生徒たちに伝え、生徒たちが書いたことばから作ったものです。最後は群読風にことばを伝えました。

「夜ノ森の桜」「止まったままの特急列車」「小高中の群青の合唱」等が多く出されました。

※なお、授業の構想にはなかったのですが、2 学期末、横浜での避難者へのいじめ事件に触れざるを得ないと考えて、授業を行いました。

◇震災前の福島の写真を見せる。⇒美しい景色←ここから離れなければならなかったんだよね。
そして、帰りたくても帰れないんだね。

「希望の牧場」（森絵都 作・吉田 尚令 絵、岩崎書店）

「原発事故で、生きものたちに何がおこったか。」（永幡 嘉之 写真・文、岩崎書店）等も。

４．「群青」が卒業式の歌に！　そして、通常学級３年生への授業

３学期を迎えたある朝、３年の学年主任から、卒業式の歌が「群青」に決まったこと、ついては、３年生にもこの歌の背景を学習させたいので、特別支援学級で行った授業の資料を貸してもらえないか、という申し出がありました。そういうことならば、自分が授業をしに行きましょうか、ということで、３年生の通常学級の生徒たちにも授業を行うこととなった。

３年生には、３クラス約１００名の全体授業として２時間、内容は特別支援学級で行った授業の圧縮版という形で授業を行いました。授業後、短時間で感想文を書いてくれました。

《１回目感想より》

○分かりやすい授業でした。群青について何も知らなかったけど、東日本大震災や夜ノ森などの事を知る事ができたので、前より（今までより）は、想像したり、感情のこもった歌を歌えると思いました。５組の群青は一人一人が歌自体をしっかり理解して

歌ってると思いました。
○すごくていねいに教えてくれてとっても分かりやすかったです。群青の歌詞にはみんなの気持ちが書かれていてすごくつらかったんだなと感じました。
○稲城市の人口や学校の人数と比較して説明してくれたので、イメージがわきやすかった。思った以上に避難を続けている人がいて驚いた。実際に現場に行ったことのある人の話の方が、テレビのニュースや新聞よりも身近に感じることができた。
○私も何度か被災地へ行ったことがありますが、自分が思っていた以上の人が前の生活に戻れていないことを知り、驚きました。自分には関係のないことと思っていたことが恥ずかしいです。
○震災が起こってかなり年月が過ぎているのに、まだ完全に回復していないと分かりました。また、放射線のせいで住めなかったり、お店が開けなかったり、きれいな桜を見ることができないのだと知りました。この授業を通してさまざまな思いが込められている群青を一生懸命歌おうと思いました。
○私は、今回の授業を受けて、日本で起こったことなのに、知らないことばかりだったと思いました。自分の住んでいる場所とは遠いから関係ないとは思わず、もっと興味をもって知ろうとするべきだったと感じます。

《２回目感想より》

○群青を作った高校生や歌詞を作った先生が群青を作った時の気持ちをビデオで話していて、歌にこめられた、共に過ごした仲間たちへの思いなどがよく伝わってきました。仮校舎で不自由な事があったりしながらも、文化祭の練習などを一生懸命やっていて、とても良いと思いました。
○なにげなく歌っていた群青だけど、山下先生の授業を二時間受けていろんなことがこめられていることがわかった。生徒一人一人の気持ちであったり、先生の願いであったりが、お互いくみあってできている大切な歌だとわかった。
○今回の授業で、小高中学校の映像を見て、群青の歌詞は、もう会えない人たちへの想いなど、たくさんの思いがあって、できているのだなと感じました。東京でも福島みたいな災害が起こるかもしれないから、どうでもいいではなく、何かできることをしたいです。
○小田先生や生徒の方の心境がよく伝わってきて、歌詞の中の「またねと手を振るけど、明日も会えるのかな」という言葉に深い意味を感じた。
○小高中学校の仮設校舎での生活をまとめたビデオを見て、当時まだ多くの生徒が色々な場所にちらばっていて、家族ともはなれて生活しているなど、苦しい環境で複雑な心情を抱えていたのだと思いました。実際に小田先生の話をきいたり、小高中の卒業生の話をきいたりすると「群青」がつくられた背景などに現実感がでてきて、歌詞により感動しました。
○音楽の先生の、「前の文化祭ではピアノの音だけが流れていた。」ということを聞いて、それだけ生徒一人一人が『震災』という出来事に大きく影響を受けたということがよく伝わった。また、『群青』の中に、「またねと手をふるけど、明日も会えるのかな」という歌詞があるが、とくにその歌詞が印象に残った。卒業式で『群青』を歌う前に、この授業を受けられてとても良かった。三年生全員にとって思い出に残る卒業式にしたいと思った。

この授業の後、合唱練習を含んだ卒業式練習が行われましたが、卒業式を間近に控えて、他学年の先生からも「群青」の合唱に対するコメントが述べられました。

○1，2 年生の皆さん、3 年生の合唱を楽しみにしていてください。「群青」すごかったよ。さっき、2 時間目の練習を聴いて、終わった後「I 先生、一言お願いします」と言われたけど、本番でもないのに、胸が詰まって言えなかった。(式予行が始まる直前の１，２年生への指導で。教務主任)
○昨日行われた卒業式の予行。3 年生の歌声のすごさは、いったいなんて表現したらいいのでしょうか。ものすごい迫力があり、強さがあり、心に響いてくる、思いをうったえかけてくる。とにかく「すごかった」としか言いようがないと感じました。（１年学年だより）

資料１

５組だより

No.２４
平成 28 年 10 月 11 日(火)
中学校
発行　5組担任

被災地に思いを寄せて～合唱曲「群青」を通して～

～明日１２日(水)道徳授業地区公開講座～

１１月に行われる一中の合唱コンクール。５組の合唱曲は「群青（ぐんじょう）」です。この曲は、福島県南相馬市立小高中学校の、生徒たち（震災当時の中学校１年生）と音楽の先生（小田美樹先生）によって作られました。楽譜には、「**作詞:福島県南相馬市立小高中学校　平成24年度卒業生、作曲　小田美樹(福島県南相馬市立小高中学校　教諭)**」と載っています。

この曲ができた経緯を小田先生の言葉で紹介します。（パナムジカＨＰより）

〈群青の子ら〉

小高中学校のある福島県南相馬市小高区は、福島県の東端、浜通りと呼ばれる地域にあります。福島第一原子力発電所の北、半径 20km 圏内に全域が入り、住民全員が今なお避難生活を送っています。

平成 24 年度の卒業生は東日本大震災当時の 1 年生でした。106 名いた学年の生徒のうち 2 名が震災時の津波の犠牲となり、97 名がその後の原発事故による避難のため、北は北海道、南は長崎まで散り散りとなりました。4 月 22 日にやっと市内の中学校を間借りして学校を再開したときには、学年の生徒はたったの 7 名となっていました。

ある日、誰がどこにいるのかを確かめながら仲間の顔写真を大きな日本地図に貼り付けていると、生徒たちは口々に「遠いね」「どうやったら行けるの？」「でも、この地図の上の空はつながってるね」などの気持ちを述べました。その日から、「群青」の詩の核となる生徒たちの日々のつぶやきを綴る毎日が始まりました。

小高区は「紅梅の里」と呼ばれており、小高中学校はその紅梅の色をイメージした「エンジ色」がスクールカラーとなっています。しかし校歌に「浪群青に躍るとき」という一節があることから、文化祭は「群青祭」という名称であり、野球チームも「小高群青クラブ」と名付けられています。「群青」とは本校に関わる誰もが自分たちの色と感じている色の名前であり、私たちの絆そのものです。

「群青の子ら」は「群青の町」で再び集う日を思い描き今日もどこかで同じ空を見上げて頑張っているはずです。そして、そう思い続けることが私がここで今日を生きる力ともなっています。いつかあの美しい小高で「群青の子ら」と再開できる日を信じています。（後略）

平成 25 年 7 月 18 日　福島県南相馬市立小高中学校　教諭　小田 美樹

私たち（教員）の思い

せっかく「群青」を歌うのならば、この曲が作られた背景を生徒たちに伝えたい、そして、そのような学習を行うことで、５組の「群青」の合唱がさらに質の高いものに（というより、思いのこもった合唱に）なるのではないか、と考えて学習を行ってきました。

東日本大震災が起こった２０１１(平成２３)年３月１１日、現在の中学生は、３年生が小３、２年生が小２、１年生は小１だったことになります。「その時、あなたは何をしていましたか？」という問いを生徒達に投げかけることができるのも、そろそろ最後かもしれない、という思いもあります。（問われても、もう覚えていない状況がありますから。）

これまでの学習の経過

箇条書きになりますが、これまで生徒達がどんな学習をしてきたのか、お伝えします。

○熊本地震のこと

今年の４月、震度７という地震が熊本で起こってしまいました。（熊本はＭＴ先生の故郷です。）その後も、熊本を含む九州地方は、度重なる大雨や台風で、大変な被害を被っています。東日本大震災の話の前に、ごく最近起こった日本の災害について、概略を学びました。

○東日本大震災のこと

東日本大震災については、具体的な数字と、山下が現地で撮ってきた写真等を使って話をしました。震災から５年半。先ほど書いたように、１年生は小学校１年生の時の記憶です。「その時、あなたは何をしていましたか？」に対して、あまりはっきりとした記憶がない人たちもいました。

○未(いま)だに避難している人がたくさんいること

～特に福島で多いこと。Ｉ市の人口と同じだけの人が未だに避難している。～

144,370 人。これが今年８月末の段階で、東日本大震災の影響で、未だに避難している人の数です。（多摩市の人口が 148,262 人。）　この内、福島県民で避難している人が、８６，９８６人。その内、県内避難が４６，１５３人、県外避難が４０，８３３人。ちなみに、Ｉ市の人口が、８８，８１２人。生徒達には、「Ｉ市に住んでいる、赤ちゃんからおじいちゃん、おばあちゃんまでの全員が避難してまだ帰れない」という人数であると話しました。

○今の福島の様子～２０１１年から時が止まったようになっている様子を中心に～

常磐線の原ノ町駅で特急列車が止まったままになっている様子、浪江町の新聞店で大震災を伝える新聞が配られず、そのまま束になって積まれている様子、小高駅前の駐輪場に置きっぱなしになっている自転車、夜(よ)ノ森(もり)駅が草が生えて荒れてしまっている様子、夜の森の有名な桜並木が満開(今年の４月の映像)だけど、誰も見ることができない様子、建物は壊れていないのだけれど、人も車も通っていない町並み等々、山下が実際に行って撮って来た写真を中心に、故郷へ帰れない状況があることを学びました。

○小高中学校のこと

映像で、小高中学校の生徒が仮設校舎で学んでいる様子、「群青」を作った小田先生のお話、小高中の生徒が文化祭で「群青」を歌っている様子等を見ました。この時は、映像に解説を加えながら見たのですが、本当に全員が食い入るように映像を見て、こちらの話をしっかりと聞いていました。そして、小高中の生徒が「群青」を合唱しているところでは、気が付くと何人かが一緒に口ずさんでいて、その様子にこちらは涙が出てきてしまいそうでした。

＊＊＊

この学習では、毎回、生徒達にちょっとした感想、考えていること、知っていることなどを書いてもらっているのですが、これも本当にしっかり書いてくれていて、教員としてはとてもうれしい思いです。（生徒達のことばは、また後日紹介したいと考えています。）

明日の道徳授業地区公開講座では、「群青」の歌詞の中で、生徒達が好きなところ、気持ちをこめて歌いたいところ等のことを中心に、授業を進めていくことになると思います。授業の進み方によっては、**生徒達の歌声も聴けるかも**しれません。

お忙しいとは思いますが、明日の道徳授業地区公開講座、ぜひ来ていただいて、生徒達が合唱曲「群青」に向き合っている様子をみていただければと思います。

資料２

5組だより

No.27
平成28年 10月28日(金)

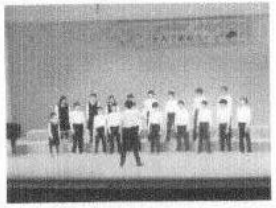
合唱コンクール 感動をありがとう！！

思い返せば6月、体育大会が終わり初夏の日差しがまぶしくなってきた頃、今年度の合唱コンクールの曲が決まりました。ハンドベル合奏はディズニー映画より『美女と野獣』、合唱は東日本大震災後に福島県南相馬市立小高中学校で生まれた曲『群青』。

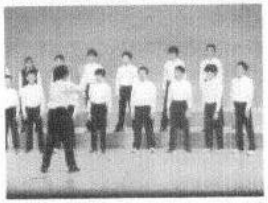
最初は美女と野獣がどのような物語なのかDVDを鑑賞したり、楽譜の表紙に印刷する「群青」の筆文字を皆で選んだりしましたね。覚えていますか？

あれから約４カ月、厳しい練習にも長時間の練習にも耐え、本当によく頑張ってきました。

今年のハンドベルは途中で曲調が変わる転調のある曲だったため、音が多く複雑で、リズムも難しかったことと思います。音階を歌ったり、手拍子で練習したりして少しずつ皆の音が合い、美しいメロディーが聴こえ始めました。本番直前には一日に二時間授業があり、更に放課後もベルを振る・・というハードな練習もこなしました。



群青を歌うにあたって、福島のことを沢山勉強し、考えてきましたね。あの曲は小高中学校の生徒たちの曲でもあるけれど、今、５組の皆の曲でもあると思います。「ああ　あのまちで生まれて君と出会い　たくさんの想いだいていっしょに時をすごしたね」



この一中５組で出会い、毎日一緒に過ごすこと、歌うことの幸せ、故郷や自分の学校の大切さや生きることの尊さ・・。沢山の人の想いを知り、感じながら練習してきた皆だからこその、あの合唱だったのだと思います。

１年生は初め、ハンドベルの音を鳴らすことも難しかったのに、本番では客席まで届くメロディーを響かせることができました。合唱でも曲の作られた背景に想いを馳せて、表情豊かに歌う姿がとても素敵でした。

２年生はいつも授業中のムードメーカーとなり、周りの友達や先生に元気と笑顔を沢山くれました。音楽が大好きで、皆で頑張ろう！という温かい雰囲気を作ってくれたのはあなたたちです。口を大きく開けて全力で歌う表情や本番の堂々とした態度に去年からの大きな成長を感じました。

（裏面へ続く）

そして３年生。ベルの正確さやリズム感、堂々とした歌声はさすが最上級生だと、いつも頼もしく思っていました。パート練習では自分たちで練習を進め、率先して声を出し後輩たちをリードしてくれました。持ち前の根性や負けん気の強さで、練習の厳しさや本番の緊張感に打ち勝ち、演奏をより良いものへと高めてくれたのも３年生の皆です。ありがとう。

５組初の生徒指揮者、　　君。夏休み中から＿＿先生の指揮レッスンに始まり、昼休みや放課後も練習を重ねてきましたが、一度も疲れた顔なんて見せたことがなく、いつも前向きで、どんどん新しいことを吸収していってくれました。家で楽譜を見ながらの練習も大変だったことでしょう。立ち姿や表情まで凛々しく頼もしく成長し、ダイナミックな指揮で皆の気持ちと歌を引っ張ってくれました。＿＿君のおかげで皆が安心して歌えたのだと思います。

素晴らしいハンドベル合奏、合唱をやりきった皆の顔は清々しく、充実感に満ちているように見えました。「全力でやりきれば、気持ちは伝わる！」ということが証明されましたね。皆の一生懸命な姿はとても素敵です。このステージを忘れず、また新たな挑戦へつなげていってほしいと思っています。素敵な演奏を、感動を本当にありがとう！！

保護者の皆様、練習から本番まで大変お世話になり有難うございました。また当日は多くの方に会場まで足を運んで頂きましたこと、心よりお礼申し上げます。ご家庭での温かい応援の言葉が、子ども達の力となったのだと思います。二学期も残すところあと約二カ月となりましたが引き続きどうぞよろしくお願い致します。

♪魂を込めて熱い指導をして下さった　先生よりみんなへのメッセージ♪

中５組の皆へ

素晴らしい演奏をどうもありがとう！！！ 心から感謝の気持ちを送ります。いままでついてきてくれてありがとう。みんなのステージに立つ姿、とても輝いていました。その姿に感動しました。

練習では、難しいこと、いままでやったことがないこと、はじめてで戸惑ったこと…つらいことたくさんあったと思います。ですが、みんなから、できないことから逃げるとか、できないからやらないという態度を見たことはありませんでした。そこにみんなの素晴らしさがあると思います。努力し続けることは本当に難しいことですが、そこに人は感動し、その人自身を信じることができるんだと思います。

歌声にはその人の気持ち、生き様が見えます。努力すればするほど上手くなり、なまければ下手になります。いつも一心に心をこめて必死に歌ってくれてありがとう。音楽とは、自分が楽しむことはもちろんのこと、聴いているひとを元気にさせたり、明るい気持ちにしてくれたり、感動をあたえるものだとおもっています。それをみんなは今回実現することができたのではないでしょうか。自分を信じることができましたか？自分と向き合えましたか？君たちと出会えて　　は幸せです。

三年生、いつも一所懸命向き合ってくれてありがとう。最後まで＿＿も一生懸命みんなに音楽を伝えていきたいと思っています。どうぞよろしくおねがいします。

みんなのことが大好きです。本当に頑張ってくれてありがとうございました！！！！

５．まとめ～ここまでの授業を振り返って～「教師として伝えたいこと」

２０１１年から毎年取り組んできた東日本大震災に関わる授業ですが、「はじめに」でも書いたように、東日本大震災のことを「ともかく、伝えなければ」という思いで、これまで取り組んできました。だから、もちろん生徒に考えてもらいたいけれど、まずは事実を伝える、ということが第一義でした。一斉授業の中で、その場で問いかけ、何人かが答える、それを受け取って、授業を進めていくという、いわば、知識伝達型の授業でした。

今回の授業では、「事実を伝えなければ」という思いに変わりはなかったのですが、同じ中学生が、ある日突然、故郷を離れなければならなかった、仲間とばらばらにならなければならなかった、その事実、理不尽さを、何とか一人一人に考えてもらいたい、という思いも強くありました。

そこで、具体的には、ゆっくり考える生徒たちが発言できるように、考えをメモしてから発表してもらおうと考えました。いつも、すぐに発言する生徒たちには待ってもらうことになります。それでも実際には、数名の生徒はなかなか発言することも書くことも難しいという実態はありました。

しかし、こちらの予想以上の生徒たちの反応もありました。簡単にメモだけ書いて、その時間中に発表してもらおうと考えていたのですが（まあ、それはそれで、かなり難しい課題です)、ほとんどの生徒が一生懸命考えてよく書いてくれました。結果としては、その時間ではなく、次の授業で全員の書いたものをプロジェクターでお互いの意見を見て、何人かの意見を口頭で聞いて、次の学習につなげていく、という形になりました。

生徒たちがこの一連の授業で「このことを学んだ」ということは、なかなか言い切れないのですが、「避難指示が解除されたら、福島に行って、夜の森の桜を見てみたい」「人がいたらいいのになぁ、と思った」等の生徒のことばから、何らかのことを学んでくれたのではないかと考えています。

また、授業を始める前は、もうこれ以降は「３．１１の時、あなたは何をしていましたか？」という問いかけから始める授業はできなくなるだろう、と考えていました。しかし、確かに、そこから始める授業はできないかもしれないけれど、被災地の今を伝える授業は、題材を選び、何を伝えるのかを考えることで、これからもできるし、続ける必要があると今考えています。

六年という年月の中で、医学的な放射能汚染にはとどまらない原発事故の恐ろしさを痛感している。それは、人間の尊厳そのものを破壊してしまう、ということである。――夢や希望など語らなくても、人間らしい生活などを要求しなくても生きていけるでしょ。すぐに死ぬわけでもないし、住む所も食べるものもあるのだし、賠償・補償だってしているのだから、もう「過去」のことにこだわらず、明るい話をしましょう…。「これまでと同じ毎日を取り戻したい」という当たり前の望みが、とんでもない「ぜいたく」になっている。それが為政者たちの思惑にとどまらず、一般の善良な人びとの心に入り込み、私たち被災者までがそう思わされてしまっている。

原発事故が過去のものになっていないか、他人事になっていないか、知らないふりをしていないか。福島の現実を、原発事故が起こるとどうなってしまうのか、一人でも多くの方に知ってほしい。

（大貫昭子「福島から伝えたいこと」より。『歴史地理教育』2017 年 3 月号）

※大貫昭子さんは、2017 年 2 月逝去されました。

実際に使用した(生徒に示した)主な資料

〈写真〉

１．山下が、２０１１～２０１６年に訪れた被災地の写真
　その中から、２０１１年の宮城県石巻市、２０１４～２０１６年の福島の写真
２．熊本地震の写真（熊本日日新聞社「平成 28 年熊本地震 特別報道写真集 ～発生から２週間の記録～」より
３．「原発被災地を歩くガイドブック」（相馬新地・原発事故の全面賠償をさせる会発行）より

４．福島に関わる新聞記事
５．南相馬市立小高中学校のＨＰより
６．１９８３年の三宅島の噴火に関わるもの～山下が撮った写真、学級だより等

〈数字〉
１．東日本大震災に関わる数字は、警察庁、復興庁、各県ＨＰより
２．小田先生、井戸川先生（いずれも当時小高中学校の教員）の文章、小高中学校のＨＰ等より

〈動画〉
１．２０１６年４月６日の日本テレビニュース映像「夜の森の桜並木の映像」
２．「青の絆～仮設校舎からの卒業式～」（OurPlanet-TV 制作）の一部…２０１４年３月の小高中の卒業式までの数か月（文化祭「群青祭」での「群青」全校合唱も含む）の映像。「群青」を作った生徒たちは、この時、高校１年生。
３．「群青」を作った生徒達を中心とした小高中特設合唱部による「群青」合唱（パナムジカＨＰ）
～２０１３年３月に行われた復興支援コンサート「Harmony for JAPAN 2013」での映像

〈絵本〉
１．「希望の牧場」（森絵都 作・吉田 尚令 絵、岩崎書店）
２．「原発事故で、生きものたちに何がおこったか。」（永幡 嘉之 写真・文、岩崎書店）

生徒には示さないが、教員が授業を作る際に参考にした資料
１．パナムジカ（合唱楽譜専門店）の「群青」特設ページより
小高中の小田美樹先生（音楽）の言葉、編曲者の言葉等
※「明日も会えるのかな？～群青 3.11 が結んだ絆の歌」（坂本勇仁著・パナムジカ・2017 年 3 月）
２．当時の養護教諭、井戸川あけみ先生の言葉
・「教育」2012 年 6 月号「いま保健室でできること～子どもたちのケアと教育～」
・「復興は教育からはじまる～子どもたちの心のケアと共生社会に向けた取り組み」（明石書店 2016）に書かれた「震災後の子どもたちと学校～地域に生きる養護教諭としての関わり～」
３．その他
・「原発被災地を歩くガイドブック」（相馬新地・原発事故の全面賠償をさせる会発行）
・毎年の「教育のつどい」のフォーラム、教科研大会等々の現地からの報告
・「福島から伝えたいこと（第１～３集）」（福島県立高等学校教職員組合女性部作成）
・その他、新聞記事等々

＊＊

最後に、生徒たちがこんな学習を行える（このような学習権を保障できる）授業ができるようになりたい、という思いで「ユネスコ学習権宣言」(1985) の中のことばを記しておきたいと思います。

学習権とは、
読み書きの権利であり、
問い続け、深く考える権利であり、
想像し、創造する権利であり、
自分自身の世界を読みとり、歴史をつづる権利であり、
あらゆる教育の手だてを得る権利であり、
個人的・集団的力量を発揮させる権利である。

資料３

《東京の中学校特別支援学級》数字は 2016(平成 28)年度

〇都内 613 校中 190 校に知的障害学級設置（3.2 校に 1 校）

〇１設置校平均在籍生徒数 17.9 人

〇ほとんどの時間を特別支援学級で学ぶ。（このレポートの学級は全ての時間、特別支援学級で）

《時間割等》

	月		火	水		木		金
1	国		家	国	理	国		英
2	音		家	理	国	数		数
3	美	技	数	音		音	社	国
4	美	技	国	数		社	音	体
5	技	美	体	体		体		総
6	技	美	道			総		学

〇生徒数 21 名（1 年 6 名，　2 年 9 名，3 年 6 名）

〇3 学級 4 担任（プラス非常勤教員 1 名：週 4 日勤務）

〇音（3 時間の内、2 時間）、美、体、理は、時間講師がメインで授業。

《保護者向け学級運営方針より抜粋》

◎どんなクラスにしていくのか、どんな集団に育ってほしいのか？

◇まずは、クラスが安心できる「居場所」になるように。

穏やかな人間関係を土台に、互いのよいところを認め合える関係に。

（〇〇君って、□□はすごいんだよね。）

◎子どもたち一人一人に、どんな人に育ってほしいのか？

◇周りの人や出来事等と「やわらかく」関わっていける「折り合いをつけられる」人に。

〇人を頼ることのできる人に。～自分を信頼し、人を信頼する～

〇「わからない」こと、「できない」こと、「知らない」ことを恥ずかしがらない人に。

～「わからない」と言える人に。「わかりたい」と思える人に。～

◎家庭との連携

〇学級全体として

学校と家庭が、お子さんのことで相互に相談し合える関係になっていければうれしいです。また、保護者の方同士もアドバイスし合い、頼り合える関係ができていけばと思います。子どもたちの成長と一緒に、私たち大人も成長していきたいですね。

そういう意味でも、学級の保護者会を大事にしていきたいと思います。保護者の方たちと教員で、いろんなことを学んでいけるといいですね。